

令和3年度 秦野市食育推進委員会（書面会議）の質問・意見等

1 議題(1)「第2次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」の最終評価について（資料2、3）

委員名	質問・意見等	回答及びご意見に対する考え方
碓井委員	資料2 1-(1)⑤ ・「食に関する指導」年間計画は、市内全小中学校で作成されている。計画に沿った取り組みは充分とは言えないと感じている。年間計画の作成に満足せず、実際の取り組みに結びつくようにすることが課題である。	・参考にさせていただきます。
碓井委員	資料2 1-(1)⑥ ・令和2年度市内栄養教諭の配置は、下記4校です。 （渋沢小、本町小、南小、鶴巻小） 対象に園児、生徒が入っていますが、どうでしょうか。また給食だよりは各校の栄養士（栄養教諭、栄養職員）が行っています。「栄養教諭による…」と、目標値は現状に合っていない、又、発行年11回も現状に合っていない。 ・中学校の生徒、保護者対象に、学校教育課が給食だよりを配布しています（現在）。園児、保護者対象の給食だよりの的なものもどこかから発行されているかもしれません。ただ、栄養教諭による給食だよりは令和2年度一度も発行されていません。	・表記を訂正します。 ・園児及び保護者を対象とした給食だよりについては、保育こども園課より、公立こども園及び希望のあった私立の園へ発行（年12回）しています。
碓井委員	資料2 2-(3)⑦ ・令和2年度学校教育課から11月は「和食月間」11月24日は「和食の日」ということで、全校児童にちらしを配布するように、ということでした。人数分届き、配布しました。給食だよりや献立でも取り上げました。年3回の献立作成委員会（そのあとの献立実施のことを考えても）よりも、よっぽど、児童や保護者へのインパクトはあったと思います。 このことは、令和2年度実施状況や事業評価に記載がないのはなぜでしょうか。また、令和3年度ちらしの配布も、11月は「和食月間」のことも、教育委員会から何もなしです。なぜなのか、と思います。	・一般社団法人和食文化国民会議が実施している「だしで味わう和食の日」の企画に、昨年度参加したものであったため、昨年度のみの通知となったと伺っています。ちらしは市内全小学校の全児童に対して配布しましたが、昨年度に限らず、和食の日（11月24日）に合わせて給食では毎年和食を提供しているため、回答課としては評価の対象としなかったようです。

饗場 委員	資料 3 ・今回は最終評価となりますので、この 5 年間を総合的に評価する必要があります。比較すべきは、策定時の数値が目標値に対してどれくらい推進できており、達成できているかです。	・評価の参考とさせていただきます。
小澤 委員	資料 3 1-(1)① ・コロナウイルス感染症が、生活全般や食生活（食費も含め）に大きく影響を与えていることもあります。朝食の欠食について 3 歳児が目標に近づいていること、20～30 代男性の欠食者増加は、在宅ワークの関係もあったのではないかと推測しますが、どうでしょうか。 また、若い世代の収入の減少などはどうでしょうか。	・調査項目にコロナ前後での生活リズムや収入の変化等についての設問はないため、明確な背景は不明です。しかし、コロナ禍での生活リズムの変化による影響も可能性としては考えられます。
東江 委員	資料 3 1-(1)① ・なぜ朝食欠食が多いか、起きてすぐに出されたものを食べるだけだからで、家の周りをはくとか、庭の水まきをするなど家事を手伝わせればよいのでは。	・朝食欠食の背景は様々ですが、まずは、朝食と生活リズムの関係についても引き続き普及啓発を行います。
饗場 委員	資料 3 1-(1)② ・B→C：策定時より低下している。	・修正します。
饗場 委員	資料 3 1-(2)③ ・男性 B→C：全ての年度で策定時より低下している。 ・女性 A→B：H30 まで増加していたが、R1.2 で策定時より低くなっているが、コロナの影響を考えた。	・修正します。
饗場 委員	資料 3 1-(3)⑤ ・Cで一応よいと思われそうですが、32.8%→60%になっているにもかかわらず、Cというのは違和感があります。Bでもよいかも。評価が高すぎるのですね。	・修正します。第3次プランでは目標値を変更しています。
饗場 委員	資料 3 2-(1)⑥ ・Cでも良いですが、一応成果として、R2で7%増加していますので、Bも考えてもよいかもしれません。これも目標が高すぎたのですね。	・修正します。

東江 委員	資料3 2-(1)⑥ ・コロナ禍でテレワークなど家にいる事が多かったにも関わらず、共食が増えなかったのは大きな問題。家にいても別々に食事をしているのは、家庭のあり方をもう一度見直すきっかけになればと思う。	・第3次プランの中でも継続して取り組んでいきます。
饗場 委員	資料3 2-(2)⑦ ・A→Cです。策定時より低いか同等です。	・修正します。
大森 委員	資料3 2-(2)⑦ ・第2次プランの総合評価については、基本目標2共食の推進において、7項目学校給食における地場産地の便甲について「A」評価をしていますが、目標値・状況ともに充分とは言えないので、評価の見直しを検討してはどうか。	
東江 委員	資料3 2-(2)⑦ ・給食に地場産物を使う割合を50%以上に持っていくようにしたらどうか。農家との共働を勧める事。	・長期目標としては50%以上を設定しており、短期目標として現在の数値を設定しました。第3次プランでは目標値を50%としています。
饗場 委員	資料3 2-(3)⑧ ・B→Cです。策定時より低いです	・修正します。
東江 委員	資料3 2-(3)⑧ ・食育への関心が少ないのはPRが不足しているのでは。健康寿命を延ばすことになるとキャンペーンなどをしたらどうか。	・今後の参考とさせていただきます。
小澤 委員	・5年間の達成状況だと表記のとおりなのでしょうが、Cが多いことが残念です。	・今後の取組みに反映させていきます。
小澤 委員	・事業中止や縮小により、実績に結びつかないこともあり、評価することは難しいのですが、可能な取り組みはしていると思います。感染症が収束しても、インターネットによる支援などが続けられるものは続けていただければ、効果もあらわれてくると思います。	・今後の参考とさせていただきます。

神戸 委員	・コロナ禍で学校行事等の中止が多く直接伝える事が困難ですが、インターネットでの掲示等では伝える事が出来ない事もある。コロナが落ち着いたら行事等で対面での活動も大切だと考えます。	・今後の取組みの参考とさせていただきます。状況に応じて、普及啓発の方法を検討していきます。
内藤 委員	・令和2年度から現在においてはコロナ禍での対応となり集団や対面での事業実施が困難であったと推測されます。事業実施者としてはご苦労が多かったと思います。その点では、事業においては書面やWebでの対応で補完せざるを得ず、最終評価では目標値に届かない事業が多くなったと考えられます。今後もコロナを始め感染症対策は必要で、色々なツールを使用して対応をお願いします。 - また、資料にも記載がありますが、子供の食育は親の影響、家庭での習慣によるところが多いので、その点をより重点的に施策に取り入れていただきたいと考えます。	・今後の参考とさせていただきます。状況に応じて、普及啓発の方法を検討していきます。
平野 委員	・普及啓発活動の計画がきめ細かく行われていることに感心します。令和2年度に新型コロナ感染の影響でできなかった取組みの今後に期待したい。	・今後の参考とさせていただきます。
磯崎 委員	・コロナの影響もあり、令和2年度は事業実施に御苦労が多かったと思います。そのような中、様々な工夫をされて取り組まれていると思いました。最終評価についてはよろしいと思います。	・今後の取組みに反映させていただきます。
大森 委員	・令和2年度単年度評価については、コロナウイルスの感染症拡大防止の為、開催予定の事業の一部中止及び規模の縮小により、参加人数の減少等は評価は難しいと思います。	・今後の取組みに反映させていただきます。

2 議題(2)「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」について

委員名	質問・意見等	回答（意見に対する市の考え方）
饗庭委員	・コロナ感染症のために、十分な活動ができない状況で第3次がスタートしましたが、これから徐々に活動も広げることができると思います。また、コロナで集まれない中でも活動ができるような方法論も考えて、実践する必要があると思います。	・対面やWeb、紙媒体等、適宜使い分け、より良い普及啓発の方法を検討していきます。
碓井委員	・食育は、珍しい体験をすることでも、珍しい食べ物を食べることでなくて、日々の食事（食べること）を大切にする人になるためのさまざまな学びである、と考えています。 ・第3次はだの生涯元気プランの内容はすばらしく、担当課と関係の他課が、協力・連携することで、現場における取組が面白くなってくるように思います。例えば、歯のこと、献立のこと、まったく交差することがないけれど、2つともプランの中に入っています。本当に歯に良いメニューとして、歯科衛生士が考えるメニュー、実際の献立への指導も聞いてみたら面白いと思うのです。一案です。	・第3次プランも関係部署と連携し取り組んでまいります。
東江委員	・妊娠中、幼児期も学童期、思春期も、もっと歯科のことにふれてほしい。	・基本目標1からだ-(2)-⑧良く噛んで味わって食べることの啓発活動の中で、各ライフステージに合わせた事業内容がありますので、関係部署と連携して取り組んでまいります。主な内容は、第3次はだの生涯元気プラン38ページをご参照ください。
平野委員	・評価指標の目標も妥当であると感じる。歯科医師としては「からだ」の項目でお口のケアについても、もりこんでいただけたらと思いました。むし歯も歯周病も毎日の習慣や食生活と直結した疾患なので。	
内藤委員	・朝食欠食率に関しては以前から提案しているように子供食堂と同じ趣旨で現物支給することがよいと考えます。学校に少し早く登校しパンと牛乳を提供する。親の対応が不可能であれば、市、学校が対応することで目標である欠食率ゼロにする最短の施策でしょう。はだのっ子キッチンも稼働するので、現場である学校等が少しだけやる気と当事者意識があれば、実現できると思いますが。重点プロジェクトとしての第2次プランの結果を踏まえると、同じことを継続するよりも一歩踏み込んだ対応が必要と考えます。	・今後の参考にさせていただきます。子ども自身が、いつ何を食べるかなど、自ら考える力を養うことも大切であると考えます。食は生涯続いていくものであり、子がまた次の世代に健康的な食習慣を伝えていくために、市民一人ひとりが考え実行する力を身に着けられるよう、継続して取り組んでまいります。

大森 委員	・朝食の普及はとても関心が高いが、コロナ禍での普及啓発は難しい面もある。今回のコロナ禍では、リモート会議等集まらなくてもできる啓発（相互通信）活動も積極的に取り入れたらどうか。	・通信環境が整っていない方もいると考えられるため、対応について検討していきます。
大森 委員	・各施策における推進項目の優先順位を検討し、それを評価につなげたらどうか。	・重点プロジェクトとして朝食の普及啓発を掲げていますが、食育は様々な年代に多方面からアプローチし普及啓発していくことが重要と考えます。評価指標を設けていますので、適切に取組みを評価する必要があります。
神戸 委員	・高齢者は健康に注意して食事をしているようですが、中高生の特に女性は体形にこだわり摂食障害になってしまう人がいます。食べることの大切さや「こころ」を含めたケアをする啓発活動も大事だと思います。	・今後の参考とさせていただきます。
小澤 委員	・食育は長期にわたる間断ない取り組みが必要なので、各世代に応じた取り組みに期待しています。また、ここ数年の感染症の影響も考慮していきたいです。	・今後の参考とさせていただきます。
磯崎 委員	・小中学生の朝食欠食は、親の就労状況や生活リズム等の影響も考えられると思います。短期間で効果を出すのは難しいかと思いますが、個別性に応じたきめ細かな対応や親へのアプローチの工夫など、更なる取り組みを期待いたします。	・今後の参考とさせていただきます。
磯崎 委員	・食生活改善推進員や食農体験の実施者などの高齢化が課題として挙げられています。計画推進の担い手の確保は重要事項だと思いますので、対策の確実な実施をお願いいたします。	・今後の参考とさせていただきます。

3 その他（報告）

委員名	質問・意見等	回答（意見に対する市の考え方）
碓井委員	・食育キャラクター「ボンチーヌ」が定着していることで、学校では「ボンチーヌ」をいろいろ使って食育を展開することができています。「ボンチーヌ」の存在には大きな意義を感じています。	・給食センターの看板や給食を配送するトラックにもボンチーヌが描かれています。今後もボンチーヌと共に食育を推進していきます。
東江委員	・秦野市民の食育の日が毎月１９日ということをもっとＰＲした方がよい。知っている人がどのくらいいるのか。	・共食の認知度は評価対象としていますが、食育の日の認知度は評価対象としていませんので、数値は不明です。今後も共食と合わせて推進していきます。
平野委員	・「はだの食育通信」わかりやすく、興味深い内容でした。歯科医師会では６月の第１週目の土曜日に「フッ素塗布事業」を実施しているので、その会場で「はだの食育通信」を配布するという案を提案いたします。	・食育を広く普及啓発するため、検討させていただきます。
勝田委員	・小中合同養護部会で作成している「秦野の子」ですが、校務支援ソフトの導入にあたり、まとめ方等改定予定です。お含みおきください。	・今後の参考とさせていただきます。
内藤委員	・食育通信の発刊は有意義と考えますが、このパンフレットは成人向けであり、当事者である子供も読める食育通信（こども版）としてのパンフも作成したらいかがでしょうか。 ・ホームページやリーフレットでの広報活動もある程度は有効かもしれませんが、そもそも食育に無関心な人はこの情報を自分から積極的に取りに行くとは思えません。いかに無関心な人に興味を持っていただくかという点で市もしくはこの委員会でアイディアを出していく必要があると考えます。 ・今後はこの委員会も Zoom や Teams での開催や、本書のやりとりはメールでとか…いかがですか	・食育通信の内容を親子で一緒に考え、家庭での食育の一助となればという狙いがありますので、今後検討していきます。 ・無（低）関心層を取り込むことは大きな課題であり、委員の皆様からいただいたご意見やアイディアを活かして取り組みたいと考えます。 ・オンライン会議やメールでのやり取り等の実施に向けて、準備を進めてまいります。

大森 委員	・現在、食生活改善推進員の養成講座を受講中ですが、推進員に朝食欠食の割合を減らす方法を検討してもらうことはできないか。本件は行政からのお願いではなく、協力団体により意見を聞き、行政に反映させることを目的とするものです。	・朝食欠食をはじめとする食生活は、様々な角度からのアプローチが重要だと考えます。各地区で活躍されている食生活改善推進団体の関わりは意義が大きいものですので、より地域に根差した形での活動を通じてご意見をいただき、地域から食育の輪を広めていくことについて、行政として支援に努めたいと考えます。
小澤 委員	・プランも食育通信もわかりやすくよいと思います。多くの市民に読んで頂きたいです。	・今後も様々な方法でアプローチすることにより、食育の推進に繋げていきたいと思います。
秋山 委員	・はだの都市農業支援センターの推進する、青パパイヤ並びにジビエ活用について、学校給食への採用や、掘り取り体験などの体験学習を通じて、地域の食材について関心を高める食育教育などを推進してはどうでしょうか。こうした活動を通じて、郷土愛を育み、食育に関する理解を深めることをねらいとしてはどうでしょうか。	・様々な体験により食育に関する理解を深められるよう、今後の参考とさせていただきます。